

6月の新着本

6月8日(土) 貸し出し開始

【一般図書】

ことことこーこ	阿川 佐和子	結婚10年で離婚し、老父母の暮らす実家に戻った香子。フードコーディネーターとしての新たな人生を歩み出した矢先、母・琴子に認知症の症状が現れはじめる。弟夫婦は頼りにならず、仕事と介護を両立させようと覚悟を決めるが…。笑いと希望の介護小説。
居酒屋 ぼったくり 10	秋川 滝美	東京下町にひっそりとある、居酒屋「ぼったくり」。名に似合わずお得なその店には、旨い酒と美味しい料理、そして今時珍しい義理人情がある—旨いものと人々のふれあいを描いた短編連作小説、待望の第10巻！全国の銘酒情報、簡単なつまみの作り方も満載！
帰去来	大沢 在昌	警視庁捜査一課の女刑事・志麻由子は、何者かに首を絞められ気を失う。目を開けると、そこは「光和26年のアジア連邦・日本共和国・東京市」だった。やがて明かされるタイムトリップが起きた理由。由子は元の世界へ戻ることができるか？
木曜日の子ども	重松 清	“神さま”になりたかった少年と、“父親”になろうとした男。どこまでも深い絶望の果てに広がる、終末の風景とは…。平穏な日常に潜む裂け目と虚無を描ききった、震撼の黙示録。
傲慢と善良	辻村 深月	婚約者が忽然と姿を消した。その居場所を探すため、西澤架は、彼女の「過去」と向き合うことになる…。生きていく痛みと苦しさ、その先にあるはずの幸せ。圧倒的な“恋愛”小説。
連続殺人鬼 カエル男ふたたび	中山 七里	首から下のほとんどが溶けた死体と、稚拙な犯行声明文…。「カエル男連続猟奇殺人事件」を担当した精神科医の自宅が爆発し、粉碎・炭化した死体が見つかった。カエル男の凶行に、渡瀬・古手川の刑事コンビが再び挑む。
神様のカルテ 3	夏川 草介	「私、栗原君には失望したのよ。ちょっとフットワークが軽くて、ちょっと内視鏡がうまいだけの、どこにでもいる偽善者タイプの医者じゃない」内科医・栗原一止が三十歳になったところで、信州松本平にある「二十四時間、三百六十五日対応」の本庄病院が、患者であふれかえっている現実には変わりはない。夏、新任でやってきた小幡先生は経験も腕も確かで研究熱心、かつ医療への覚悟が違う。懸命でありさえすれば万事うまくいくのだと思い込んでいた一止の胸に、小幡先生の言葉の刃が突き刺さる。映画もメガヒットの大ベストセラー、第一部完結編。
DRY	原田 ひ香	北沢藍は職場の上司と不倫して、2人の子どもを置いて家を出た。10年ぶりに実家に戻ると、男にだらしない母と、お金にがめつい祖母がうら寂しく暮らしていた。隣に住む、介護に尽くす孝行娘・馬場美代子の家にはある秘密が…。
犯罪乱歩幻想	三津田 信三	幻の同居人、地下の秘密倶楽部、眼前で起きる殺人、夢遊病の青年、鏡の中の魔…。ミステリ×ホラーの名手が誘う、新たな乱歩の世界。禁断の犯罪が幕をあける。「屋根裏の同居者」「赤過ぎる部屋」など全7編収録。
おばあちゃんが、ぼけた。	村瀬 孝生	人間は、生まれる／遊ぶ／働く／愛する／死ぬ。しかも、ぼける。ならば、混沌をおそれず、感性をぼけに沿ってゆるめていこう。ぼけの可笑しさ、不思議さ、怖さ、美しさを通して、人間といういのちの限りない深みに触れる。
大家さんと僕	矢部 太郎	階には大家のおばあさん、2階にはトホホな芸人の僕。挨拶は「ごきげんよう」、好きなタイプはマッカーサー元帥、牛丼もハンバーガーも食べたことがなく、僕を俳優と勘違いしている…。大家さんとの“二人暮らし”の日々を描いた、奇跡の実話漫画。
ノースライト	横山 秀夫	一級建築士の青瀬は、車を走らせていた。望まれて設計した新築の家。施主の一家も、あんなに喜んでいたので…。Y邸は無人だった。越してきたはずの家族の姿はなく、「タウトの椅子」が残されていた。このY邸で何が起きたのか？
人生は還暦から！ 【今月のスタッフおすすめ本】	小山内 美江子	新しいチャレンジを恐れることはない。いくつになっても学ぶこと、得ることはたくさんあるのだから。「3年B組金八先生」脚本家、日本人への最後の提言。

☆ NHKテレビテキスト「きょうの料理6月号」は閲覧できます。

☆ 児童図書・絵本は、別途掲示しています。

なお、7月新着本貸出日(7月13日)から貸出いたします。

